

令和4年度

河瀬高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・確かな学力を身につけ、自ら課題を設定して解決法を探る態度を育む。
- ・人権教育を通じて正しい倫理観と実践力を育み、よりよい社会の構成者を育成する。
- ・世界の課題を自分事として捉え、持続可能な社会の担い手としての素養を育む。
- ・個性や適性、発達段階に応じて進路について考える機会を設け、自らの未来を選択する力を育む。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	中高一貫教育校として、自学自習を目指し、発達段階に応じた教育活動を実施している。	A	A	A
	教育活動を公開・発表する機会を設け、改善につなげている。	A	A	B
2 学習指導	ICT等を活用し、学力向上のための学習指導の工夫・改善に励んでいる。	A	A	B
	授業評価を積極的にを行い、生徒の授業満足度を高めるよう努めている。	A	A	B
3 生徒指導	生徒指導を、生徒の更なる成長の機会と捉え、基本的生活習慣の確立に努めている。	A	A	B
	生徒の自治能力を高めさせ、生徒会諸活動の一層の充実発展を期している。	A	A	A
	生徒へのいじめに関するアンケート等を行ない、実態把握と指導等を行なっている。	A	A	B
4 進路指導	進路の手引きや有益な進路情報に基づいて、個に応じた丁寧な進路指導を行っている。	A	A	A
	生徒の将来の夢や希望が実現できるよう、各教科の指導を徹底して行っている。	A	A	B
5 特別活動等	中高一貫教育校にふさわしい異年齢による学校行事や交流活動を推進している。	A	A	A
6 学校図書館	図書便りの発行、蔵書の充実により図書館の利用充実に努めている。	A	A	A
7 保健・安全指導	教育相談やスクールカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	A	A	B
	登校指導・防災訓練など、生徒が安心して学校生活を送れるよう取り組んでいる。	A	A	B
8 人権教育	多様な題材を取り扱うことにより、多角的・多面的に人権について考える機会を設けている。	A	A	A
9 環境教育	「クリーンデー」などを設け、環境活動への啓発を図っている。	A	A	B
	SDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り入れた学習活動や探究活動の充実に取り組んでいる。	A	A	B
10 事務・管理	施設・設備の安全点検を日常的に行うとともに、学校環境の整備に努めている。	A	A	A
11 その他 学校の取組み	より良い学習環境構築のため、PTA活動を推進している。	A	A	A
	教育の情報化を推進し、Society5.0に向けた教育を行っている。	A	A	B

(注)・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価) A B C Dの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価) A B C Dの4段階で示す。
 ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 ・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。